



せんだん

みんな なかよし みなげんき

安来市立南小学校 校長室便り

令和4年7月19日

<https://www.city.yasugi.shimane.jp/gakkou/minami-es/>

明日で1学期も終了です！ どんな思い出が心に残っているのかな？

「With（ウィズ）コロナ」の学校生活も3年目を迎え、感染予防の取組が子どもたちには日常のこととなり、特に意識をしなくても、手洗い・うがい、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用、換気などができています。それもあってか、入学式や運動会、宿泊研修、学習公開、プールを利用した水泳学習などの子どもたちが楽しみにしている学校行事についても、特に中止にすることなく実施できました。

昨年度は豪雨により臨時休業や保護者の迎えによる下校などの措置も取りましたが、今年は空梅雨の反動も少なく、安心して登下校をすることができました。学校内の畑の作物も順調に育ち、玉ねぎ、イチゴ、ズッキーニ、トウモロコシ、スイカなどを収穫し、各家庭で美味しく召し上がられたのではないのでしょうか。なかよし2では中庭の梅を使って梅ジュースを作り、職員にふるまってくれました。

1学期間充実した学校教育活動ができたのも、保護者の皆様が、家庭での健康観察や検温にご協力いただいたり、不調の時には登校を控えたりするなどの感染拡大予防のためにご協力をいただいたからと、改めて感謝申し上げます。

現在、県内では爆発的に感染拡大傾向がみられ、安来市内でもじわじわとひろがってきています。夏休み中も引き続き、感染予防対策をした上で、県や市のガイドラインに沿った行動に努めていただきますようお願いいたします。

二中校区内3小学校一緒に情報科学高校で活動しました。

7月12日に6年生は情報科学高校に出かけ、能義小、宇賀荘小の6年生と一緒に情報科学高校3年生のウェルカム講座に参加しました。昨年度から取り組み始めたこの事業は、二中校区の小学6年生が一堂に会し、4月からの二中での学校生活をスムーズにしていくことと情報科学高校生との交流を通して将来の自分の進路を考えるキャリア教育をねらいとしています。

前半のドローン体験では、最初は言葉もあまり交わさない堅い雰囲気の中での活動でしたが、少しずつ飛ばすことができるようになると、会話もぼつぼつ出てきて、得点板の間をくぐるミッションに成功すると歓声もあがるようになりました。

後半の語り場（座談会）ではすっかり打ち解けたこともあって各グループで車座になって、小学生から高校生への質問や高校生から小学生へのアドバイスなど積極的に会話していました。高校生が上手に話を引き出したり、しっかり話を聴いたりする姿が6年生にとって良いお手本になっていました。



情報科学高校の先生方が、二中出身者の高校生をたくさん参加させてくださったこともあり、この活動をきっかけにして、地域での交流にもつながってくれることを期待しています。

子どもたちの声

○1年生（1人欠席で8名からの聞き取り）

「1学期一番楽しかったことは何ですか？」

- ・ 図工（4人）
折り紙でいろいろな形を作ったこと
絵の具を使ったこと
- ・ 体育（1人）
泳いだこと、たからとりおに
- ・ 業間休み（1人）
野球
- ・ 昼休み（2人）
体育館でのボール投げ
友達との野球

1年生にとって70日弱の1学期はとても楽しかったようです。4月当初は緊張気味で声も小さく、友達同士の関わりもあまり見られませんでした。この頃は大きな声で元気な姿をたくさん見ることができます。初めてやることをワクワクしながら積極的に挑戦する姿をととても頼もしく思います。小学校生活にもすっかり順応しています。

初めての夏休みもふだんできないことをどんどんやってみてほしいです。

7/20～8/29の行事予定

- 7/20（水） 終業式
- 21（木）～22（金） 個人懇談
- 21（木）～29（金） PTA プール開放
- 23（土） 秋葉さん鼓笛パレード他
- 27（水）～28（木） ひまわり教室
- 30（土） 6年学年行事（大山登山）
- 8/22（月）～23（火） ひまわり教室
- 28（日） PTA環境整備作業
- 29（月） 始業式

※新型コロナ感染拡大状況によっては、行事が中止や延期になる場合もあります。その際にはスクールメールで連絡します。

夏の思い出

まもなく始まる夏休み。子どもたちはどうやって過ごそうかと楽しみにしているのでしょうか？それとも友達と遊ぶことが少なくなる物足りなさを感じているのでしょうか？

自分の小学生の頃の夏の思い出と言えば海が全てでした。父の実家が巻き網船団をもっていて、市場に水揚げされた魚を大人が魚種や大きさ別に選別してトロ箱に入れたものを、ほぼ毎朝私や兄弟、従兄弟たちで指定の場所に運び、きちんと並べる作業をしていました。作業が終わると祖母から働いた時間に応じた小遣いを受け取り、近くの食堂で昼食を食べさせてもらいました。

昼からも海です。家から自転車を5分も漕げば2つの海水浴場がありました。ひとつは砂浜でひとつは岩場でした。当時は3年生以上であれば地区単位で子どもたちだけで泳ぎに行ってもいいというおおらかな時代でしたので、目一杯遊びました。下学年の時には、上学年の足手まといになると連れて行ってもらえなくなるので何をやるにも必死でした。そうやって泳ぐ力や潜る力、貝の採り方などを自然と身につけて行ったと思います。砂浜の遠浅の海のコワさを知ったのもこの時の経験からです。

我が子が小学生の時には、既に岩場の海は埋め立てられて泳ぐことができなくなり、砂浜の海も子どもたちだけで泳ぎに行くことができるのは中学生になってからと、自分が体験したことを追体験することができなくなりました。

自分が経験したことをさせてやりたいと思ってもそれができない環境になってしまった寂しさを感じます。なぜあの頃の大人はそれを許してくれていたのか不思議に思うこともあります。

子どもたちにとって夏休みの思い出は強く心に残るものです。子どもたちだけでできるのがベストですが、それが難しいのであれば大人のお力添えをお願いします。休み明けに目を輝かせて体験を話してくれることを願っています。